

気管切開吸引パンフレット

気管切開吸引とは・・・

気管内の痰や唾液などの分泌物を自分の力だけでは十分に
出せない場合に、器械を使って出す手伝いをすることです。

どうして吸引を実施するの？

気管内の痰や唾液などの分泌物を取り除いて呼吸を楽にし、
換気をよくします。また肺炎などの感染症を予防します。



(1)必要物品

①吸引器(様々な吸引器があります)



②吸引カテーテル



- ・医療者と相談し、自分にあったサイズで準備してください。
- ・吸引カテーテルは**1日1本交換、破棄**してください。(痰の粘調度や吸引回数が多い場合などは1日1本以上交換して頂く場合もあります。)

③アルコール綿



④吸引カテーテルの保管容器

- ・吸引後のカテーテルを保管するために使用します。
- ・ペットボトルや空の瓶、など洗える容器で準備してください。
- ・容器は中性洗剤で**よく洗ってしっかり乾燥させ、毎日交換**します。

⑤水道水を入れる容器

- ・吸引後のカテーテル内をきれいにするための水道水を入れておきます。
- ・コップやペットボトル、空の瓶など洗える容器で準備してください。
- ・容器・水道水は**吸引毎に毎回交換**してください。使った容器は中性洗剤で**よく洗ってしっかり乾燥**させてください。
- ・洗い替え用に2セットは準備しておくといでしょう。(紙コップを利用し、毎回使い捨てにする方法もあります。)



退院後は②吸引カテーテルと③アルコール綿は在宅療養相談室でお渡しします。外来受診後、お立ち寄りください。

(2)吸引の方法

- 1、手を石鹼でしっかりとよく洗い、アルコール綿を出しておく。
(写真は手袋装着していますが、手袋は必要ありません)
- 2、吸引器の電源を入れ、吸引カテーテルを吸引器の接続チューブにつなぎます。



- 3、吸引圧の調整、確認をします。



吸引カニューレの根元を折り曲げて吸引圧がかかることを確認します。

※吸引圧は小児は-13kpa まで、大人は最大-27kpa までで調整します。

- 4、気管カニューレに接続されている人工呼吸器や人工鼻などを取り外します。



利き手で外し、利き手で無い手はカテーテルを保持しておきます。
吸引カニューレの先端が他にあたって不潔にならないように注意が必要です。



5、利き手で吸引カテーテルの中央を持ち、もう片方の手でカテーテルの根元を持ちます。



先端から手で持っている所までは清潔です。どこにも触れないようにしましょう。



聞き手の親指、人差し指、中指で鉛筆を持つようにカテーテルを持ちましょう。



※再利用の吸引カテーテルは、アルコール綿でカテーテル外側の中央から先端を拭き、水道水を吸引してから使用します。



6. 吸引カテーテルをゆっくり気管カニューレ内に挿入します。



カテーテルを挿入する長さの目安は、5～10cm(コツント当たるところの少し手前)です。
挿入する長さは医師に確認しましょう。



7、決められた長さまで挿入できたら、カテーテルの先をくるくると回し、カテーテルを引き抜きつつ吸引します。



★1回の吸引時間は10～15秒以内としましょう。
★吸引の途中や後に呼吸の様子・顔色・唇の色などが悪くなってないか注意しながら行います。状態が悪そうならば、吸引をすぐに中止しましょう。
★痰の色や臭い、量なども観察しましょう。



8、吸引後、すぐに人工呼吸器や人工鼻を気管カニューレに再接続します。



痰で汚染することを防ぐために利き手の反対の手→吸引カニューレに触っていない方の手で実施しましょう



9、吸引カテーテルの外側に付着した痰をアルコール綿で拭きとります。



カテーテルの中央から先端に向かってめぐって外側をきれいにしましょう。



10、水道水を吸いカテーテル、接続管の内側をきれいにします。



カテーテル内がきれいになるまで十分に水を吸いましょう。
カテーテル内の水分はしっかり吸い上げ、カテーテル内に水が残らないように注意しましょう。



11、再度、吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭きとり、しっかり乾燥させてから容器に保管します。(最後にアルコール綿のアルコールを吸わせると乾燥が早いです。)

13、カテーテル内洗浄用の水道水を捨てます。

14、吸引瓶内に痰などが7～8割たまったらトイレに流し、中性洗剤などで洗いましょう。吸引瓶はそれほど貯まらなくてもできるだけ毎日洗いましょう。



15、最後に手を石鹼でしっかりよく洗いましょう。

注意 カフ上部の吸引孔がある場合は接続管をつなぎ、気管吸引前に吸引を行います。(無いタイプのカニューレであれば、この作業は不要です。)



カフ上部
の吸引孔

<容器の準備例:使用しやすいように工夫しましょう>



育児用品のペットボトル・ホルダーはカテーテルがおさまり便利です。



100円ショップにあるクーラーバックは軽くて防水なので収納に便利です。



(3)吸引での注意点

1、気管内は清潔に保つことが必要であるため、口、鼻からの吸引よりも、より清潔に吸引する必要があります。口、鼻から吸引したチューブをそのまま気管吸引に使用することは不潔であり、避けましょう。

※口腔内吸引している場合は、気管用とは別で吸引チューブ、吸引チューブ保管容器、カテーテル洗浄用(水道水を入れる)容器を準備しましょう。

2、吸引チューブを保管する時に痰や水分が残っていると細菌の繁殖の原因になるため、きれいに取り除き、よく乾燥させて保管しましょう。(手順9～11参照)

3、吸引時間が必要以上に長いと(特に状態が不安定な方)、息ができずに危険な状態になります。無理をしないようにしましょう。

4、状態が変化した場合(顔色不良、出血など)の緊急連絡先(通院先、訪問看護、在宅医など)を確認しておきましょう。